

問答形式による、「最終版」作成に向けての重要論点整理

②「淡海三船」という人物が、『日本書紀』の構図(からくり?)を指し示してくれている?!

- I:①に関連して、他に、何か面白いことはありませんか?例えば、これまで誰も指摘していないようなテーマとか、話題とか?
- D:そうですねえ…そう言えば、それこそ世間をあっと言わせるような仮説(珍説?)があることはあります!まったくの素人の、しかも、ほとんどを、他人の研究成果に依拠している、さらには(傍目には?)、いわゆる「いいとこ取りのつまみ食い?」しかしていない私ですので(事実かな?)、それこそ誰も耳を傾けないかもしれませんが、そのことを意識(確信?)したときには、我ながら大いに興奮したものです!
- I:それは、聞き捨てならない話ですね!つまり、誰もまだ、そのようなことは主張(発見?)していないということですよ?けど、たとえそうであったとしても、よくある「トンデモ話」のようにも思いますが、まあ、私とDさんの仲ですので、率直に(気軽に、こっそりと?)話を聞かせてもらえれば嬉しいです?
- D:確かに、結果的には、その「トンデモ話」になるのかもしれませんが、実は、歴代天皇のうち、「神武」「崇神」「応神」、そして「神功皇后」という人物の漢風諡号(中国風の死後の贈り名)に冠されている「神」という字の意味とその関係に、「記紀」の、ひいては我が国古代史の大きな枠組み(からくり?)が嵌め込まれているのではないかと?そういうことです!
- I:大体、名前ぐらいは知っていますが、もう少し詳しく話を聞かないと、何が、どういうことなのか?ほとんど分かりませんが、その「神」という用字に、何か特別な意味があるということですか?
- D:もちろんそれもありますが(改めて、この4人にしか、「神」という字は使われていない!)、問題は、その4人の名前の関係性ということですよ!漢語の素養があるわけではありませんので、その個々の熟語には、それ自体の意味(その人物の特徴等?)が込められているのですが、私には、その4人の関係性が、何らかの形(意図)でもって暗示されているように思えるのです?!
- I:実在かどうかはともかく、個々の人物(天皇?そして、その全員が、ある実在の人物の投影?)は、年代的には異なる時期の人物かと思われまますので、その関係性と言っても、直接には関係ないのでは?彼らが、ある意味重要な役割を果たした人物であったため、死後、それを称える「神」という字が使われた?そして、最もその人物に似合った熟語(意味)が賦与された?単純に、そういうことであったのではないですか?
- D:確かにそうかもしれませんが、しかし、実はこれも、あまり一般の人には知られていないと思いますが、「記紀」が編纂された後の、確か8世紀後半?だと記憶していますが、「淡海三船」(一応「天智系」の皇族?)という人の創作だということなのですよ(記載されている全天皇の漢風諡号を考案した!)?
- I:え?そうなんですか!普通に今、私達が呼んでいる「〇〇天皇^{てんのう}」という名前は、すべて、その「淡海三船」の命名ということですか?もし、そうであれば、実に大変なことをやってのけたものですね?
- D:どうも、そういうことのようなのです!まあ、一方であった「和風諡号」(〇〇天皇^{すめらみこと})は、長い名(しかも難しい呼び名!)であるので、ほとんど使わないし、だから馴染みもない?ということになりますよ、それはともかく、ここが重要かと思いますが、その淡海三船という人物が、一人で(一度に?)、それぞれの天皇に名前を与えたということは、そこに、彼なりの歴史(自国史)の受け止め方、総括の仕方(哲学or主張?)が介在したのではないかと?ということになります?!
- I:確かに、そうですね?とは言え、何故、その「淡海三船」という人は、そういうことをしたのでしょうか?
- D:私には、その辺の事情(動機等)はよく分かりませんが、少なくとも、彼には、「記紀」(直接には『日本書紀』)の編纂方針やその過程がよく分かっており(史実も含めて?)、そこに示されている内容や人物の事績を勘案して、表面的には(ツールとしては)、漢籍等を利用し(彼は、かなりの文人であった!)、それぞれの天皇に諡号を与えたと考えられますが、こと、この「神」の使用、そして、その「神」を使用した4人の人物の関係を、〇〇という熟語で示そうとした?!ということなのではないかと?ということですよ!
- I:もし、そうであれば、この「淡海三船」という人は、大変な人物であったということになりますね?
- D:その通りですね(文人としての矜持?あるいは他の何らかの思い?)!だから、こここのところも、改めて誰かが鋭意指摘(究明)してくれたらなああと、独り?期待しているところです!私には、当然?出来ませんから!
- I:そう言われても困りますが、紙幅もないので、端的に、それはどのような関係だと考えているのですか?
- D:要は、基(起)点が「応神」で、その応神を祖神化したものが「神武」、また、その両者に挟まって、「崇神」が、彼らを「崇める」、そして「神功(皇后)」が、「応神」の母(生みの親?)ということですよ?!
- I:しかも、その関係は、実在の人物や勢力の関係と見ることが出来る?ということですか?
- D:まさに、その通りですよ!それは、おそらく「江南系」「伽耶・新羅系」「百濟系」の、それぞれの渡来集団のこと(王権?)と思われまますよ、その詳細(真実?)は、残念ながら、ここでは触れることが出来ません!